



ハテマロ会 ネパール大震災支援活動

ハテマロ会

हातेमालो समाज



HATEMALO SOCIETY

第2回「ネパール大震災 被害状況視察&復興支援」 報告書

日時：2015年10月2日（金）～2015年10月24日（土）

活動報告：スラズ・プロダン / 山上亜紀 / 高柳治信

2015年11月30日

1. 概要

本年4月25日に発生した大地震に続き、5月12日をはじめとする多くの余震は、ネパールに甚大な被害をもたらしました。地震発生直後から被災地の復興支援のために、ハテマロ会では被災地報告会、チャリティー上映会、清掃募金活動をはじめ様々なイベントを企画し、募金活動を実施しております。本会では「緊急支援」と「中・長期的支援」の実現に向けて、9月9日～10月25日に掛けて、6名のハテマロ委員が現地視察及び支援を行い、さらに、今後の中・長期的支援のあり方を探るために、対象地域・支援内容を様々な視点から調査して参りました。



第1回目のラジブ・小島のご報告に続き、ハテマロ委員のスラズ・山上・高柳の3名がネパールの被災地を視察し、支援をして参りましたので、ここに第2回目としてご報告致します。

現地視察者: スラズ・プロダン、山上亜紀、高柳治信の3名

視察期間: 2015年10月2日(金)～10月24日(土)

(10月2日～16日:スラズ+山上、10月17日～22日:スラズ+山上+高柳、10月24日:スラズ)

視察対象地域: パタン、バネパ、バクタプル、ボーダナート、サンク、スワヤンブナート、ブンガマティ、サノガウン、ルブ、タイバ、テツォ、ブル、チャパガウン、レレ、コカナ、キルティプル、カトマンズ。

(上記の対象地域は視察した順に述べている。また、視察期間中、インドによる国境閉鎖のため、ネパール全土にガソリン・ガス不足が続きました。公共交通機関も減り、移動が困難となったため、震源地であるシンドゥパルチョーク、ゴルカ、ダディンといった遠隔地の視察を断念した。)

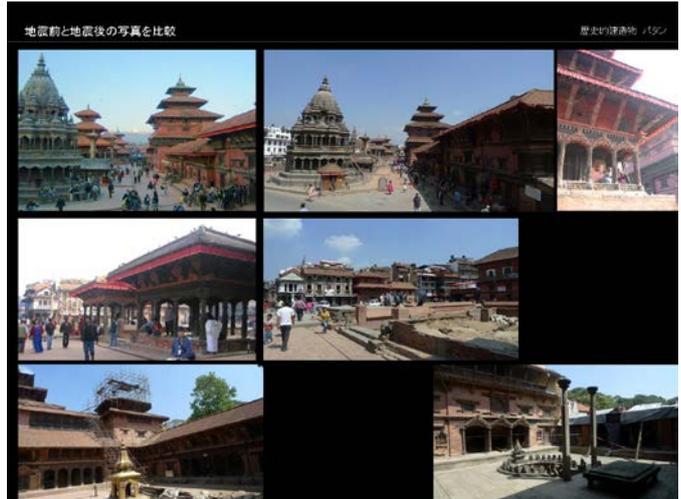


2. 現地活動報告

10/2 (金)

1) パタン王宮広場視察

パタン王宮広場の世界遺産の寺院やパティ（1階建ての休憩所）、サッタール（2階建てで、1階は休憩や儀式に利用し、2階は巡礼者のための宿泊施設）などが被害を受けており、ムルチョーク、スンドリチョーク内での寺院、外壁も崩れ落ちている。広場の寺院の中にも、つかい棒で支えているものが多くみられた。



2) チャサル〜スンドラ周辺、イカチェ家屋内部

住民の案内で、古い住宅の内部を見学させてもらった。一見、外からは被害が少ないと思われる古い住宅も、内部にはヒビが入っていて、崩れている箇所も多く、住めない状態になっている。1階で生活して、上層階には怖くて上がれず、ほとんど使われてないケースが多かった。



3) タイバに工場を持つハンディクラフトの店舗訪問

店舗の女性に地震当時のことや観光客の減少について伺った。また、タイバの工場が倒壊し、従業員もそれぞれの村に帰ったため、品物が生産できない状況となっている。今後、日本でのイベントにおける物品販売に繋げられるかどうか打診した。

10/3 (土)

1) バネパ視察（家屋、チャンデソリ寺院）

地元の方々に案内してもらった。古い住宅のほとんど倒壊や損傷が激しい。傾いている建物やヒビが入った古い建物にも人が住んでおらず、空き家として取り残されている。サッタールやパティも崩れ落ちそうな状態になっている。ただし、現地のコミュニティと市役所が共同で資金を提供し、修復したサッタールやパティはほとんど被害を受けていなかった。



チャンデソリ寺院自体は修復を行ったばかりで、被害がなかったものの、チャンデソリ寺院境内のマハデヴ寺院は倒壊している。



2) 被災地手作り品の購入

現地での手作り品の店を見学。日本で今後、支援販売出来そうなポーチ、女性用の財布、アクセサリ一等を購入。

10/4 (日)

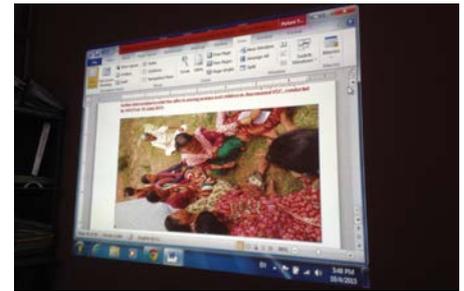
1) バネパ市役所訪問

バネパ市役所で、チャンデソリ寺院境内のマハデヴ寺院についての情報を入手。世界遺産には登録されていないが、カブレパランチョーク地域（バネパを中心とした地域）においては中心的な寺院で、観光の面でも存在が大きい。また、外部からの支援が全く入っておらず、本会の支援が外部からの支援が初めてとのことで、市役所も全面的に協力する姿勢を示した。

2) HASTI（震災の支援を行う NGO 団体）との打ち合わせ

カトマンズに戻り、HASTI 代表の Ranga Raj Dhungana 氏による HASTI 団体の活動内容の説明を受けた。

シンドゥパルチョーク、ゴルカ、カブレなどでヘルスクリニック等の活動をされていて、ハテマロ会と一緒に一つの支援プロジェクトを進めたいとの要望があった。



10/5 (月)

1) バクタプル王宮広場、タウマヂ広場、タチュパル広場等の視察

王宮広場や住宅地の広場周辺の寺院に加え、古い住宅の被害を受けている。ただし、少人数ではあるが、観光客も見られた。バクタプルの考古局に働いている Mohan Krishna Shrestha 氏に、広場周辺や資料館等を案内してもらった。資料館内もヒビだらけで、至急の修復が必要だが、政府の方針が固まるまでどうなるか心配と言っていた。Shrestha 氏は、バネパのマハデヴ寺院の図面と見積書を担当者として持っていたので、それらを入手した。



2) Belimaya 氏家屋内部視察

王宮広場から離れている川沿いの古い住宅街はほぼ全滅で、盆地内で最も多くの被災者が出ている。王宮広場近くの Belimaya 氏の住宅の内部を見せてもらった。内部も崩れていて、今は空き家になっている。政府から倒壊した建物に対して支援があるとの発表があるものの、いつ、どうやって、何の支援を

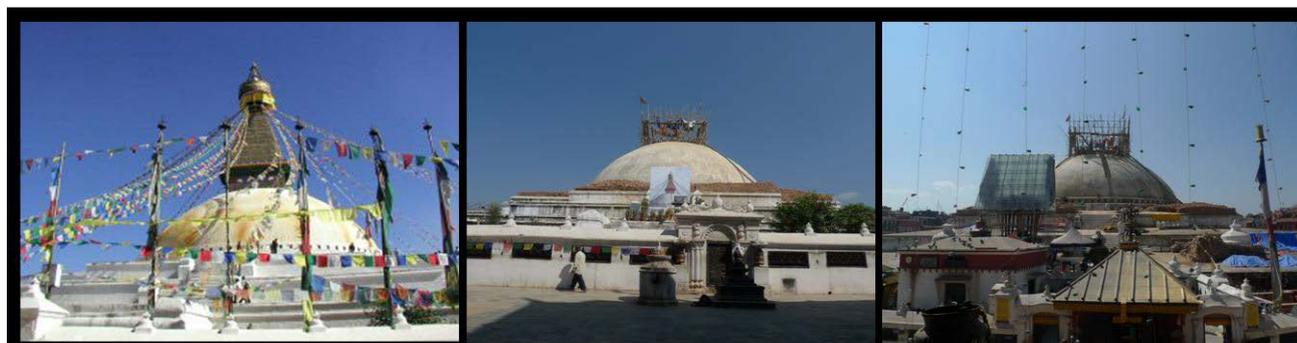
もらえるかは分からないとのこと。



10/6 (火)

1) ボーダナート視察

ボーダナートのストゥーパ自体は、頂部や他の部分的に被害を受けたものの、ストゥーパ周辺の住宅にはあまり被害が見られなかった。ストゥーパ頂部の修復作業は進められていた。



2) サンク視察 (家屋、バジュラヨギニ寺院)

Lions Club サンクの代表 Raj Kumar Shrestha 氏に、現地案内をしてもらった。Lions Club も女性教育、仮設支援を行っているが、政府からの支援が未だにない。地域の約 80%の歴史のある建物が破壊され、死者も多く出た。建設支援に関して、ドイツからの支援が入る予定ようだが、時期は分からないとのこと。町外れの山の上にあるバジュラヨギニ寺院も破損が激しく、なんとかつかいかい棒で支えている状態。



10/7 (水)

1) HASTI 団体との打ち合わせ

HASTI 団体から依頼があった共同支援プロジェクトについて、現段階のハテマロ会の資金や実働メンバーが不足している現状等を考慮した結果、今回は、実現不可能である旨を伝えた。ただし、医療支援

物資を送る件に関しては、HASTI を通せば関税が掛からないとの話であったため、HASTI を通した配布を打診した。

2) トリブバン大学、プルチョークキャンパス 建設学科訪問

大学が現在関わっている文化遺産や古い街並みの保護に関する研究、今後、大学として考えている対策について建築学科長、および先生方にご意見を伺った。海外の他の大学からも合同研究の話が来ているが、現段階では進んでない状態。研究資料や共同調査に関する情報については、必要に応じて大学が提供できるとのこと。

10/9 (金)

1) スワヤンブナート視察 (スワヤンブー寺院、家屋、バラジュ、シタパイラ)

スワヤンブーのストゥーパのヒビ割れの修復は、既に終了していたが、周辺の寺院やストゥーパ、古い住宅が崩れたままになっている。瓦礫もそのままの状態、放置されている箇所も多くみられた。観光客が少なくなり、多くの土産物屋が頭を悩ませていた。スワヤンブナート、バラジュ、シタパイラ周辺の低層コンクリート住宅や高層コンクリート住宅もヒビが入っており、住めない状態の建物が多い。



2) スワヤンブーにて FPCA (自閉症児童養護施設) 訪問

自閉症児童を支援している FPCA は、今年 (2015 年) 設立したばかりの施設で、自閉症の子供を対象としたものとしては、ネパールでの第二号の施設である。今後、大地震によって精神的に不安になった子供も対象とする予定だが、自閉症に対する政府の認識がかなり低く、政府の理解を得られないため、政府関連からの援助金等を申請できないとのこと。今現在は、6~7 人の子供を対象とする小さな施設だが、ボランティアで支え、教材となる全ての道具が手作りのものだった。



10/17 (土)

1) ブンガマティ、サノガウン、ルブ、タイバ訪問

ブンガマティ寺院は完全に崩壊し、瓦礫や石の彫刻・柱などが散乱している状態。道路沿いのコンクリート住宅は被害が少なく一方、一歩中に入ったところの古い住宅のほとんどは被害を受けている。



2) タイバにて小銭入れ作成のおばあちゃん宅訪問 (インタビュー、謝金進呈)

小銭入れを作成してくれているタイバのおばあちゃんに、地震の時の様子を伺った。今は、部屋を借りて住んでおり、倒壊した実家は悲しみのあまり未だに見に行っていないようだ。地震後は一緒に住んでいたご家族は皆離ればなれになったと言う。元気な笑顔を見せるおばあちゃんが印象的で、今後も小銭入れを作り、日本に送ることに生きがいを感じ始めているようだ。小銭入れ作成の感謝を込め、謝金を渡した。



10/18 (日)

1) テツォ、ブル、チャパガウン、レレ、ココナ訪問

古い住宅の多くが倒壊しているが、コンクリート住宅は比較的被害が少ない。レレ付近は、独立した建物が点在しているため、被害が少なく感じた。ネワール族の古い町並みで有名なココナは、被害がかなり多い。ドイツの支援で古い町並みを再現する予定にはなっているようだ。



2) キルティプル訪問

キルティプルでは古い住宅の被害もかなり少ない印象だった。バグバイラブ寺院や周辺の寺院、サッタール、パティなども大きな被害を受けていなかった。キルティプルは大きな岩の上に築かれた町との伝説があり、そのために被害が少なかったのかもしれない。



10/19 (月)

1) バネパにて、マハデヴ寺院再建支援金進呈

バネパのチャンドソリにて、地域組織チャンドソリ・サミッティと打ち合わせを行った。寺院の復興などにおいて政府や外部からの支援金は全くないが、図面や見積書もできているため、目標金額（日本円で約一千万）の25%の資金が集まれば、復興工事がスタートできる。今後、地元の方々や市役所にも協力をお願いしていく予定とのこと。ハテマロ会としては、今後、耐震技術についての情報提供や資金集めについてできる限り協力する旨を伝え、マハデヴ寺院再建支援金を渡した。



10/21 (水)

1) スワヤンブーにて、FPCA（自閉症児童養護施設）に活動支援金進呈

FPCA 施設を再度訪問し、活動支援金を渡した。活動支援金の使い道に関しては、随時ハテマロ会に報告することになっている。



10/24 (土)

1) カトマンズ王宮広場、バサンプル広場、セト・マチェンドラナート、アサンなど

王宮広場やバサンプル広場周辺の寺院などが、パタンやバクタプルに比べて被害が大きい。倒壊した寺院が多く、また、ほとんどの寺院がつかい棒で支えており、崩壊寸前の状態。カスタマンダプも完全倒壊。セト・マチェンドラナートとアサンの寺院は被害を受けなかったが、周辺の古い住宅の中には崩れているものもあった。



3. 支援対象地域・内容：

①バネパ（チャンデソリのマハデヴ寺院再建事業への参画、資金援助）

カトマンズ首都から約 25 キロ離れているカブレパランチョーク郡のシンボルとなっている、マハデヴ寺院復興計画により、伝統技術を守りながら、主な産業である観光業の復興にも繋がり、さらに、地域に希望を与えることになる。ハテマロ会が世話役となり、日本の関係団体の力を集め、また、現地の住民、地域組織チャンデソリ・サミッティ、市役所、考古局との国際協力により実施する方向になる。日本やネパールで様々なイベントを企画し、支援金協力を呼びかけると共に、日本の耐震技術や知識を伝達しながら、現地の伝統技術を守ること、加えて雇用にも繋がるような一つのモデルとすることを目標とする。

②スワヤンブー（FPCA：自閉症児童養護施設の活動資金援助）

自閉症や精神的な心のケアに関して有用な情報、資料などを提供。必要に応じて定期的に活動資金を援助すると共に、現地で入手できない教材等を日本で調達して送る。

③タイバ（小銭入れの販売からその他の手作り品の販売へ）

今後も、ハテマロ会主催で行うイベントで小銭入れを販売し、その収入でさらに、被災者の手作り品を購入、支援販売する。その支援金でさらに、手作り品による生活リサイクルに繋げていくこととする。

4. 支援活動報告

1) 支援金使途内訳

項目	資金	支出	差引
メンバー2名分	¥100,000×2=¥200,000 →170,800 ルピー *レート：¥1=0.854 ルピー		170,800 ルピー
チャンドソリ委員会 (マハデヴ寺院再建)		101,105 ルピー	69,695 ルピー
FPCA(自閉症児童養護施設)		50,005 ルピー	19,690 ルピー
タイバ小銭入れ謝金		1,000 ルピー	18,690 ルピー
車レンタル料(2日分： 10/17～18)		12,000 ルピー	<u>6,690 ルピー</u>

* 残金 6,690 ルピーは、ネパール滞在中のメンバーの資金とした

被災地での支援

●被災地での支援



- 「おばあちゃんの小銭入れ」、タイバ
・日本で販売した小銭入れの
売り上げを支援金として手渡し



- FPCA団体、スワヤンブー
・自閉症・子供の心のケアを
行っている団体に支援
50,005ルピー



- チャンドソリ、バネパ
・マハデヴ寺院復興支援
101,105ルピー

5. 感想・意見

- 世界遺産の建造物は最も被害が多く、約 80%の世界遺産が被害を受けている。
- 海外からの支援の声があるものの、政府の方針が決まっておらず、復興の兆しが見えない状態。
- 世界遺産に登録されている歴史的建造物は考古局の管理下にあり、さらに、UNESCO なども関わっていて、小希望団体からの支援としての参入は難しい。
- 世界遺産に登録されていない寺院や公共施設（パティ、サッタール等）は市役所やコミュニティ、グティ（相互扶助組織）等で管理しているため、団体からの支援としては参入しやすい。
- 政府から、全倒壊および半倒壊した建物に対する支援金の話があるようだが、時期や方法については明確にされていないため、みな不安を抱えている。
- 町の中で傾いている建物や空き家も多く、建て替え時期については資金面の問題が大きい。
- 古い建物では、壁を共有している建物が多いため、簡単に壊し建て替えるのは難しい状態。
- 細い道路や路地が多く、解体機械が入らないため、解体は手作業となり、かなりの時間を有する。
- 古い建物を壊し、建て替えようとすると、規制により敷地後退を迫られたり、隣接する建物と壁を共有することができなくなるため、壊さない住民が多い。住民の意識改革が最も必要と考える。

6. 今後必要とする対策

- 煉瓦を利用する構造が多いため、煉瓦外壁の補強技術の知識が必要。
- 耐震に備えた地盤の調査・地質調査等を政府のレベルから実施し、地域ごとの地盤情報を公開すべき。ただし、民間での地盤調査の費用が高く、実現が困難。
- 歴史的建造物の定期的なメンテナンスが必要。メンテナンスが入っていない建造物のほとんどが倒壊している。
- 古い町並みを再現するためのルールを、すぐに応用できる対策が必要。
- 多くの方が家屋を失っているため、現地で雇用を生み出す復興の仕組みが必要とされる。
- 歴史的建造物が多く建ち並ぶネパールにおいて、地元、政府、支援団体が一体となって観光業復興を促す一つのモデルを作ることは、大きな希望にもつながると考えられる。

7. 謝辞

この度、ネパールの震災復興において、相変わらぬ愛情と善意をお寄せいただき、心より感謝を申し上げます。皆様からの善意を現地の被災者の方々に直接お渡しできたことは何よりも嬉しいことです。被災者の方々から喜びと感謝の言葉をたくさんいただきました。

大震災から半年経ちますが、現地を視察して、再建には今後何年もの年月を要することを痛感しました。ハテマロ会一同、これからも中・長期的な支援活動に向けて一層力入れて進みたいと考えております。

今後とも、皆様からの暖かいご協力・ご支援をいただけるよう努力してまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

以上。